

【日本文化紹介報告書】

1. 概要

日時：2019年11月24日（日）9時～12時30分

場所：サカテペケス県アンティグア市中央公園及びスペイン国際協力庁文化施設

主催：JICA 事務所

共催：アンティグア市役所、スペイン国際協力庁、日本国大使館

参加者：海外協力隊員含む JICA 事務所スタッフ、日本国大使館、国立サンカルロス大学、
国家文民警察（PNC）、日本人学校、折り紙研究家

2. 内容

今般の日本文化紹介イベントはアンティグア市内の2か所での開催となりました。それぞれの会場でのイベント内容を以下のとおり報告します。イベント開催の前週に国営テレビ TN23 に出演し、多くの参加を呼び掛けたせいか、非常に多くのグアテマラ人が会場に足を運んで下さいました。

（1）アンティグア市中央公園

①折り紙、日本語名前書きコーナー

折り紙コーナーは JICA 事務所やグアテマラを代表する折り紙研究家、日本人学校関係者の協力の下、子供から大人まで幅広い参加者が見られました。名前書きコーナーでは600枚以上の用紙がイベント終了前になくなってしまいう程の盛況振りで、常に長蛇の列ができていました。

②算数ワークショップ

小学校教育・数学教育の海外協力隊員と国立サンカルロス大学中等教員養成校（EFPEM）の算数クラブのメンバーが共同でワークショップを行いました。JICA 技術協力プロジェクトで開発した小・中学校の教科書の展示や、算数に興味を持ってもらえる遊びやゲームで来訪者を楽しませました。

③保健ブース

助産師隊員は、身長・体重・血圧測定の健康相談スペースを設け、それぞれの健康状態につき診断し、相談にのっていました。栄養士隊員は、野菜を身近に感じてもらうための野菜スタンプコーナーをはじめ、スナックや炭酸飲料に含まれる脂分や砂糖の量を可視化できるように工夫し、参加者にインパクトを与えていました。

④幼児向けコーナー（ぬりえ、フェイスペイント、バルーンアート、ふわふわ）

日本のアニメキャラクターのぬりえコーナーを小さな子ども用に設けました。また、JICA と地域警察プロジェクトを通じて協力関係にある PNC の防犯チームによるフェイスペイントやバルーンアート等の出し物は沢山の子どもたちを笑顔にしていました。

⑤日本文化の促進

日本文化を紹介するスペースを設け、日本の遊びや和食の説明、箸で豆つかみ体験、グアテマラ人折り紙研究者による折り紙作品展示を行いました。その他、日本国大使館から借りた法被の試着コーナーは写真スポットとして人気でした。

⑥書道パフォーマンス（2回）

日本人学校戸田清徳校長により、巨大模造紙に「荘厳」「未来永劫古都アンティグア」の書と共にアンティグアの絵が描かれました。ダイナミックなパフォーマンスに観客は見入っていました。

⑦ソーラン節

山口 JICA グアテマラ事務所長の挨拶では、ボランティア派遣が今年で 30 周年を迎えることが説明された他、今回のイベントを通じて JICA 事業やボランティア派遣に関心を持ってもらいたいとの願いが伝えられました。その後、隊員によるソーラン節披露では周囲に大勢の人だかりができ、イベントの締めとして相応しい力強い踊りを観衆に見せることができました。

(2) スペイン国際協力庁文化施設

中央公園より徒歩 5 分圏内にある同施設では、ボランティア派遣 30 周年を記念して海外協力隊活動風景写真展を同時開催しました。また、日本国大使館による日本のカレンダー展や日本映画の上映も行われ、別会場でのイベントの相乗効果もあってか多くの人が足を伸ばしてくれました。落ち着いた雰囲気のコロニアル調の建物に合った展示内容だとの声が寄せられました。

3. 写真



JICA 協力及び協力隊の活動を国営テレビの生放送でアピール



栄養バランスについての説明



健康相談コーナーにて血圧測定



国立大学算数クラブの助っ人たち



お手製教材で頭の体操



折り紙に関心を持つ来訪者



大行列の名前書きコーナー



圧巻の書道パフォーマンス



3m幅の巨大な書道作品



JICA と協力関係にある警察も大活躍



子供たちに人気のぬりえコーナー



今回のイベント用に準備した写真パネル



法被の試着コーナーで心は日本



山口 JICA グアテマラ事務所長の挨拶



大トリのソーラン節は大盛り上がり



関係者との集合写真

以上